

岐阜県ヤングケアラー実態調査 調査結果の概要

令和5年3月 岐阜県健康福祉部 子ども・女性局 子ども家庭課

目次

01 調査の実施状況

02 子どもアンケート調査結果の概要

p. 2 「ヤングケアラーの自己認識」「認知度」について

p. 4 「子ども自身が世話する家族の有無」について

p. 5 「世話を必要とする家族」について

p. 6 「世話を必要とする家族の状況」について

p. 9 「世話の内容」について

p. 13 「世話をすることの大変さ」について

p. 14 「世話についての相談経験」と「相談しない理由」について

p. 15 「学校や周りの大人に助けてほしいこと」について

03 学校アンケート調査結果の概要

p. 16 「学校でのヤングケアラーの把握状況」について

p. 17 「ヤングケアラーと思われる子どもの状況」について

p. 18 「ヤングケアラー支援に必要な取り組み」について

04 インタビュー調査結果の概要

●子どもアンケート調査●

【調査対象】

県内の小・中学校、義務教育学校及び高等学校に在籍する、小学校5年生、中学校2年生（義務教育学校5年生、8年生）、高校2年生（定時制高校2年生相当、通信制高校2年生含む）（悉皆調査）

学年	岐阜県	全国(抽出調査)
小学5年生	17,506人	約24,500人（6年生）
中学2年生	18,212人	約100,000人
全日制高校2年生	15,817人	約68,000人
定時制・通信制高校2年生	1,247人	—

【調査期間及び回答方法】

	岐阜県	全国(抽出調査)
小学5年生 (全国調査：6年生)	・2022年9月5日～ 2022年9月30日 ・学校の時間内に オンラインで回答を 入力	・2022年1月 ・自宅にて調査用紙に 回答し郵送
中学2年生		・2020年12月21日～ 2021年1月31日 (通信のみ) ・2021年1月26日～2月28日 ・オンラインで回答を入力
全日制高校2年生		
定時制・通信制高校2年生		

【回答率】

学年	岐阜県	全国
小学5年生	78.7%	39.8%（6年生）
中学2年生	64.2%	5.6%
全日制高校2年生	50.6%	10.9%
定時制・通信制高校2年生	26.2%	—

●学校アンケート調査●

【調査対象】

県内の全小中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校

学校	岐阜県	全国
小学校	363校	350校
中学校	186校	1,000校
全日制高校	79校	350校
定時制高校	11校	47校
通信制高校	8校	47校
特別支援学校	23校	—

【調査期間及び回答方法】

学校	岐阜県	全国
小学校	・2022年9月5日～ 2022年9月30日 ・オンラインで回答を 入力	・2022年1月 ・調査用紙に回答し郵送
中学校・高等学校		・2020年12月～2021年2月
特別支援学校		—

【回答率】

学年	岐阜県	全国
小学校	60.3%	74.3%
中学校	53.2%	75.4%
全日制高校	67.1%	71.1%
定時制高校	54.5%	57.4%
通信制高校	75.0%	74.5%
特別支援学校	82.6%	—

●インタビュー調査●

【調査対象】元ヤングケアラー3名 及び 関係団体17団体

【調査時期】2022年8月～2023年1月

- 岐阜県居宅介護支援事業協議会
- 岐阜県地域包括・在宅介護支援センター協議会
- 認知症の人と家族の会
- 岐阜市基幹相談センターサテライトふなぶせ
- 岐阜県ソーシャルワーカー協会
- 岐阜県難病団体連絡協議会
- 岐阜県相談支援事業者連絡協議会
- 岐阜県精神保健福祉会
- NPO法人可児市国際交流協会
- 岐阜県国際交流センター
- 岐阜市「エールぎふ」
- 関市福祉政策課
- 山県市役所子育て支援課
- 県立特別支援学校4校

子どもアンケート調査結果の概要

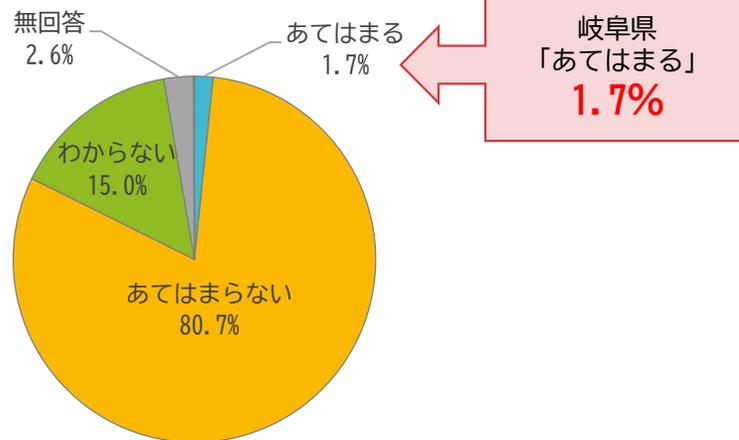
「ヤングケアラーの自己認識」について

自分が「ヤングケアラーにあてはまる」と回答した子どもは2%程度。

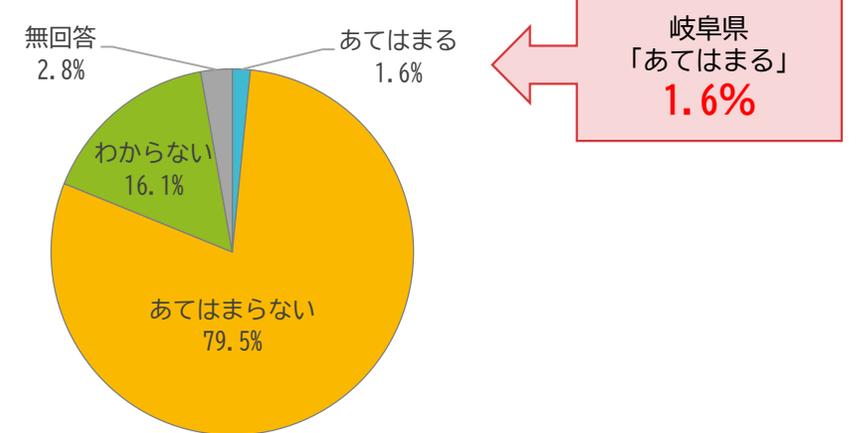
※なお、小学生調査については、本設問による当事者への侵襲性を考慮し、国実施調査と同様に設けていない。

●自分はヤングケアラーにあてはまるか

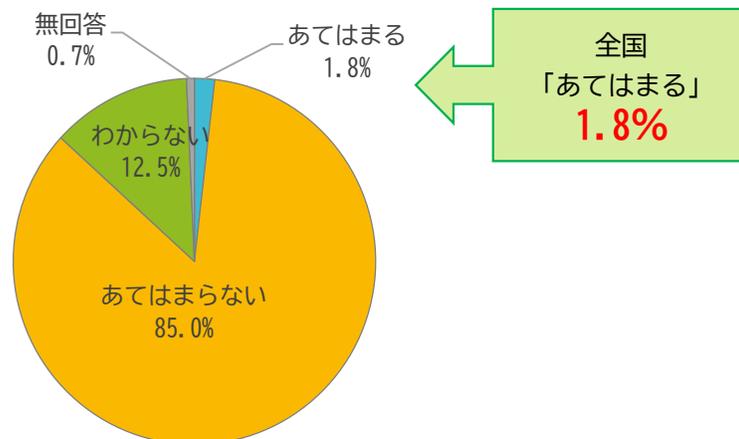
●中学2年生(11,688人)



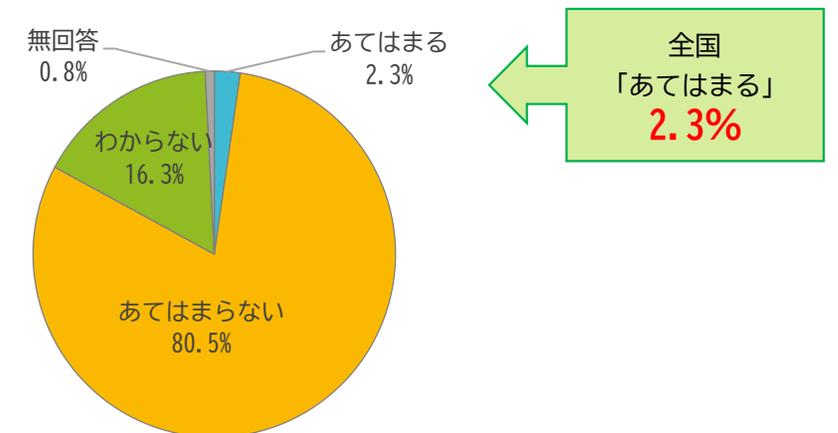
●全日制高校2年生(8,001人)



●中学2年生(全国調査:2020年12月実施)



●全日制高校2年生(全国調査:2020年12月実施)



子どもアンケート調査結果の概要

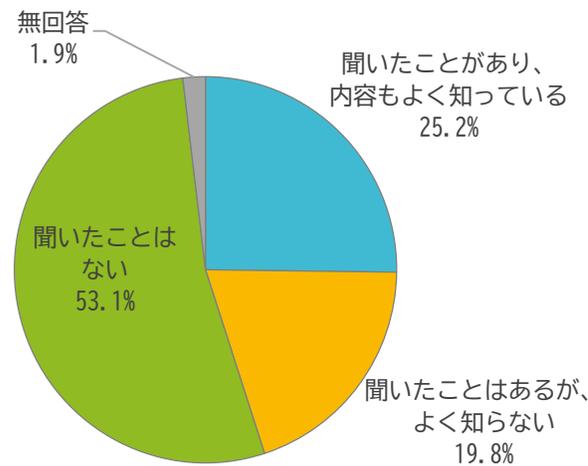
「ヤングケアラーの認知度」について

50%程度の中高生がヤングケアラーという言葉に「聞いたことがない」と回答している。

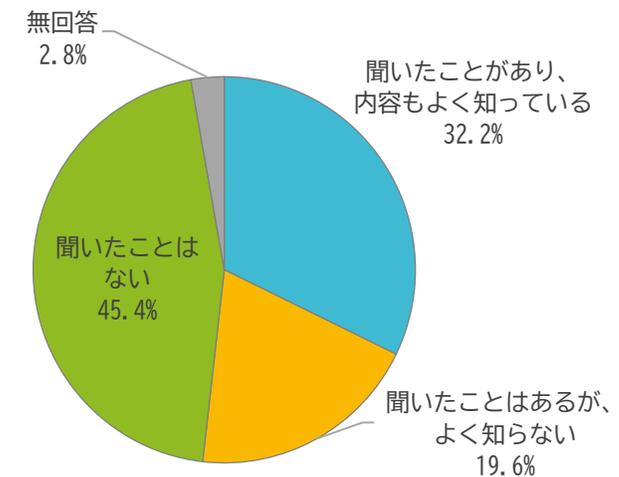
※なお、小学生調査については、本設問による当事者への侵襲性を考慮し、国実施調査と同様に設けていない。

●ヤングケアラーという言葉を知ったことがあるか

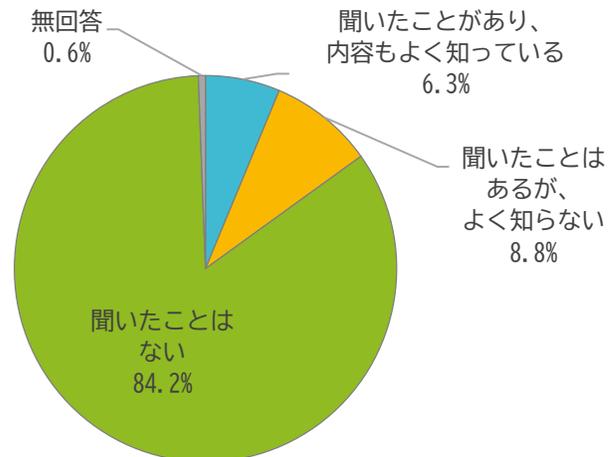
●中学2年生(11,688人)



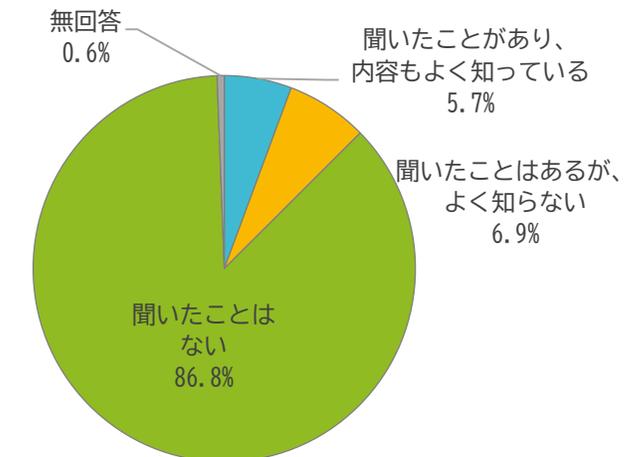
●全日制高校2年生(8,001人)



●中学2年生(全国調査:2020年12月実施)



●全日制高校2年生(全国調査:2020年12月実施)



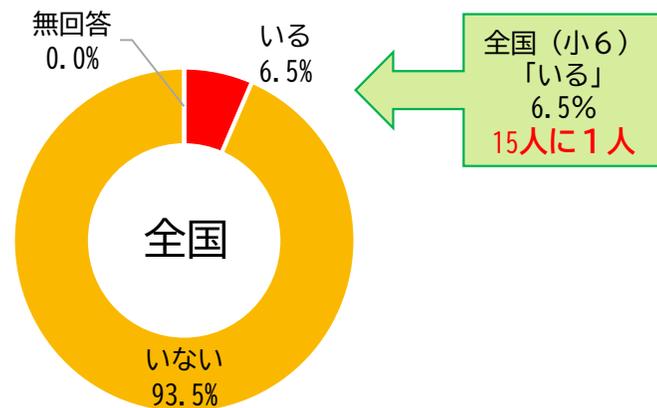
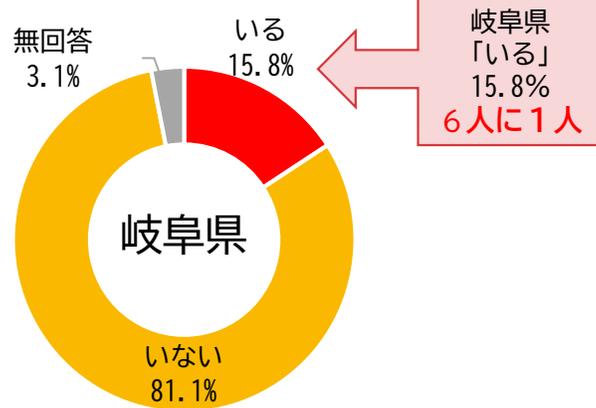
子どもアンケート調査結果の概要

「子ども自身が世話する家族の有無」について

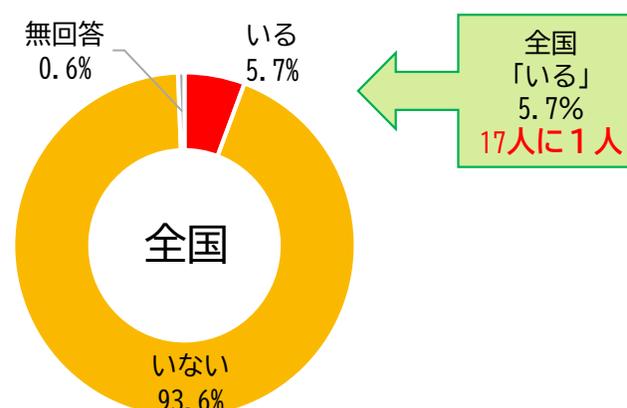
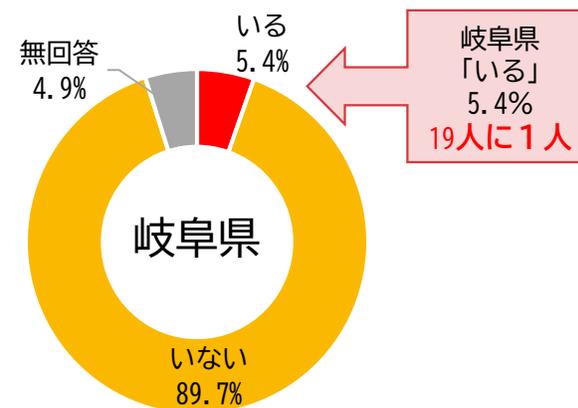
小学5年生の15.8% 中学2年生の5.4% 全日制高校2年生の3.8%が「世話をしている家族がいる」と回答した。小学生は全国調査に比べて高い割合となっている。

●世話をする家族の有無

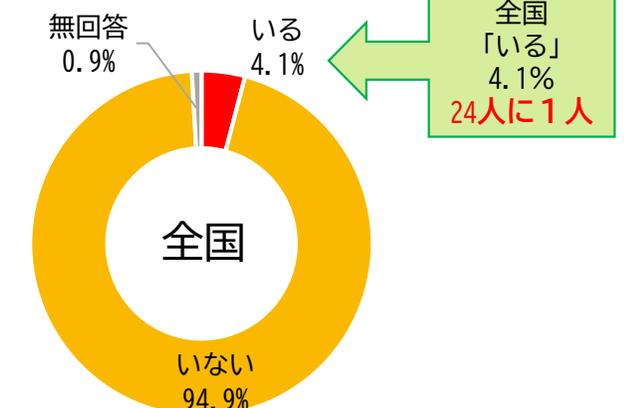
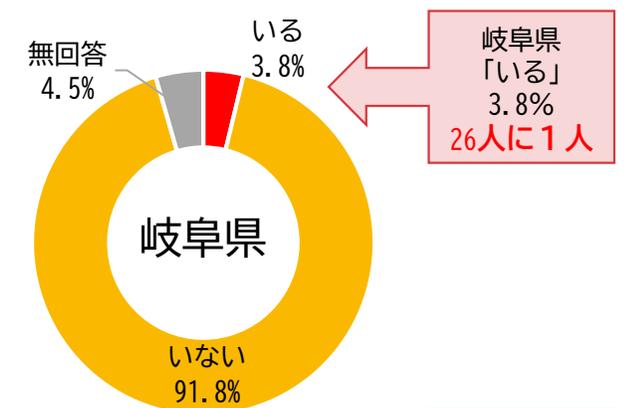
●小学5年生(13,780人)



●中学2年生(11,688人)



●全日制高校2年生(8,001人)



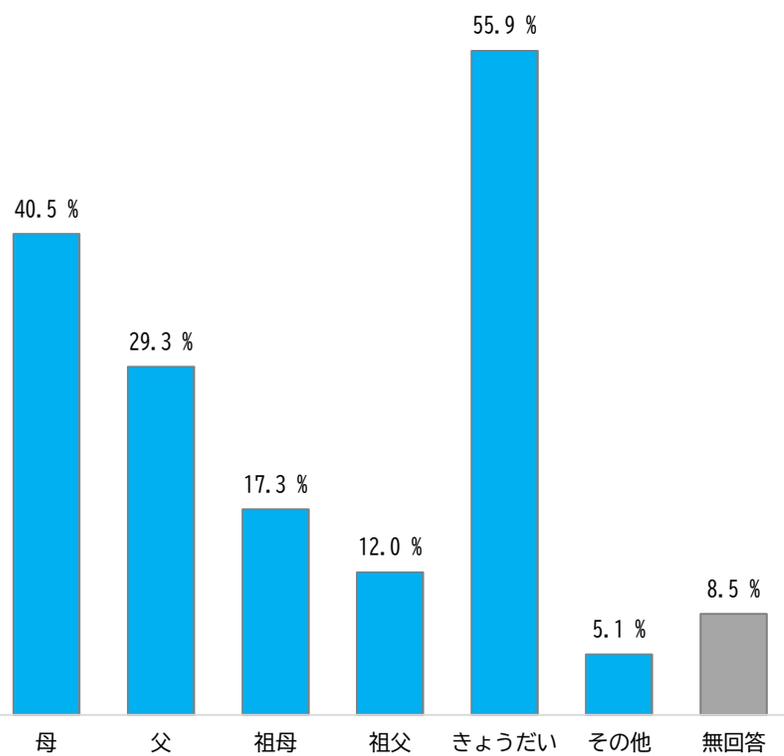
子どもアンケート調査結果の概要

「世話を必要とする家族」について

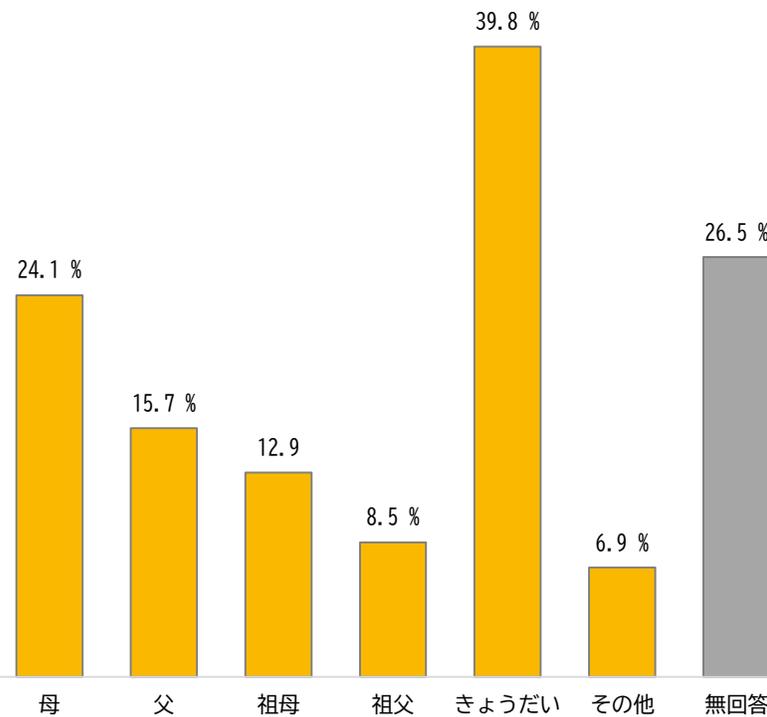
世話を必要とする家族は小中高生とも「きょうだい」が最も多く、次いで「母親」「父親」が多くなっている。

●世話を必要とする家族【複数回答】

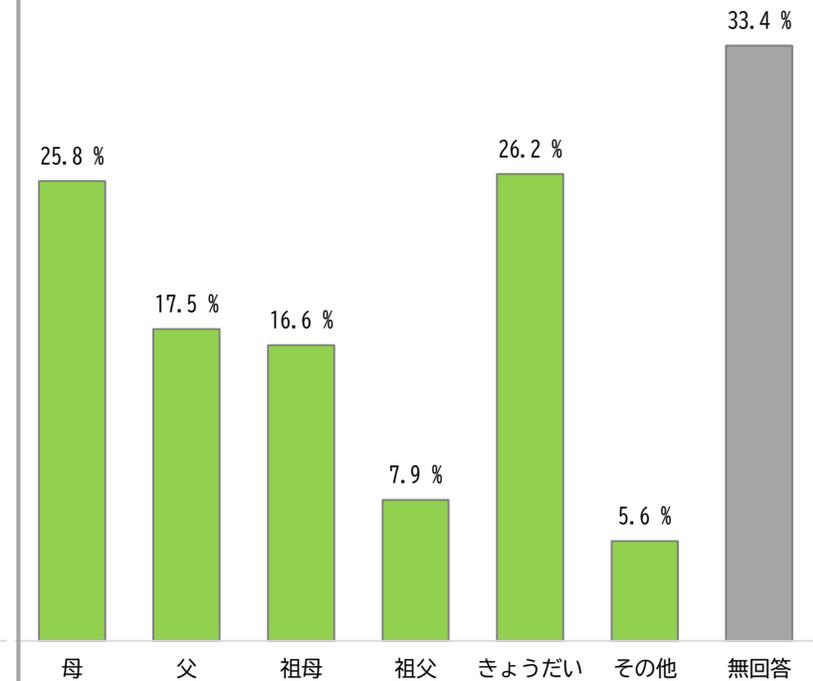
●小学5年生(2,177人)



●中学2年生(635人)



●全日制高校2年生(302人)

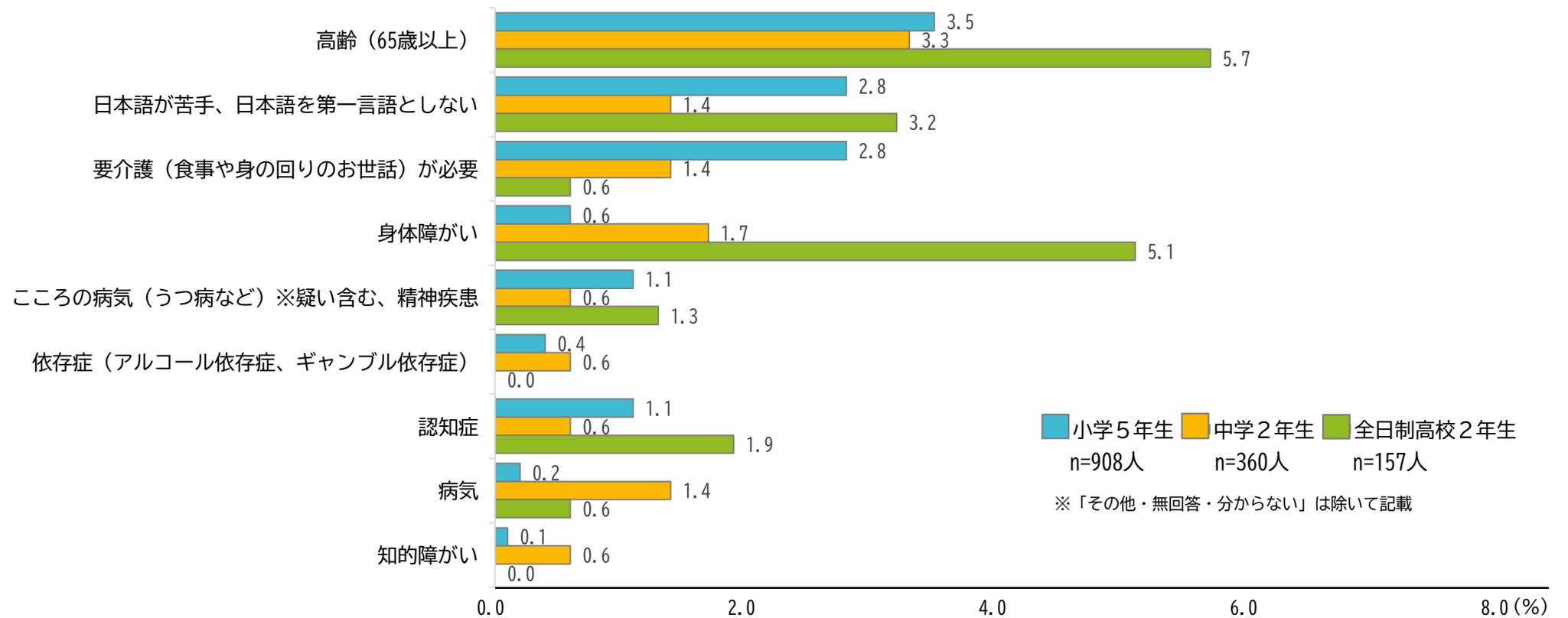


子どもアンケート調査結果の概要

「世話を必要とする父母の状況」について

世話を必要とする父母の状況については、小中高生とも「高齢（65歳以上）」が最も多く、次いで小学生では「日本語が苦手、日本語を第一言語としない」「要介護（介護が必要な状況）」中高生では「身体障がい」が多くなっている。

●世話を必要とする父母の状況【複数回答】

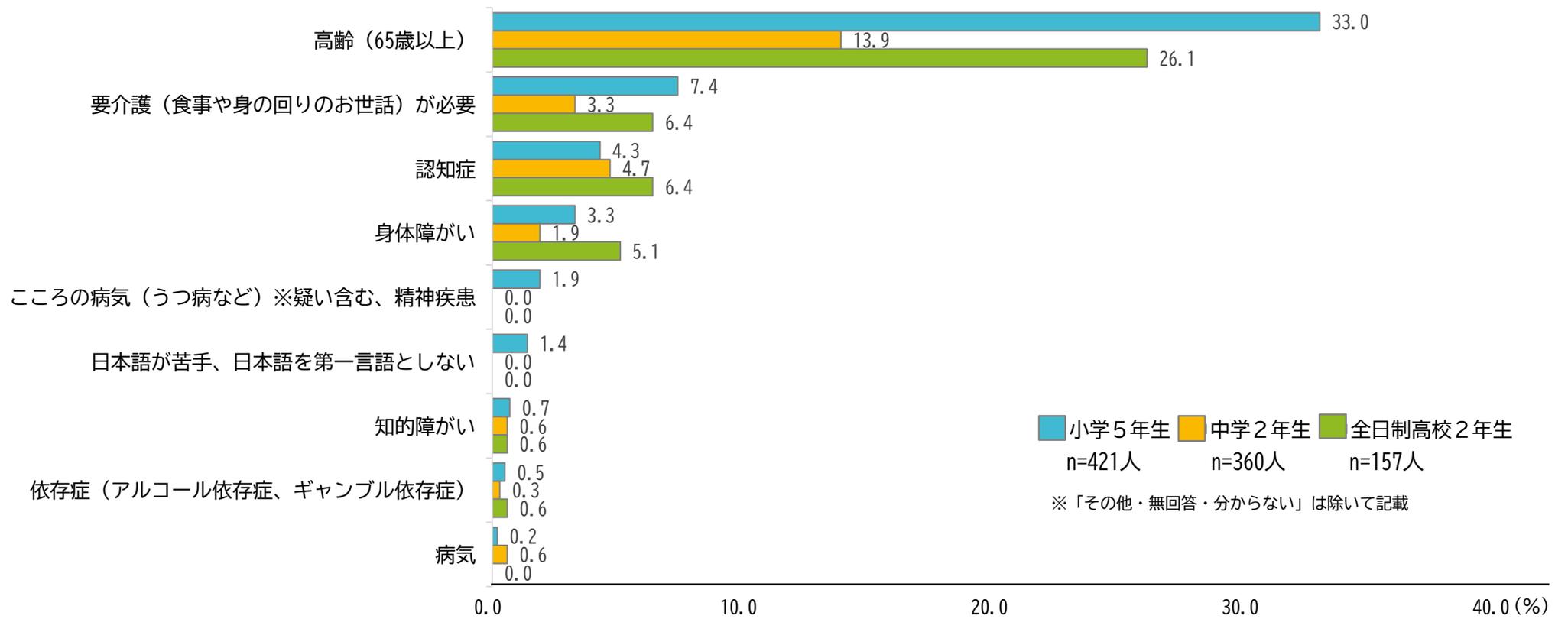


子どもアンケート調査結果の概要

「世話を必要とする祖父母の状況」について

世話を必要とする祖父母の状況については、小中高生とも「高齢（65歳以上）」が最も多くなっている。

●世話を必要とする祖父母の状況【複数回答】

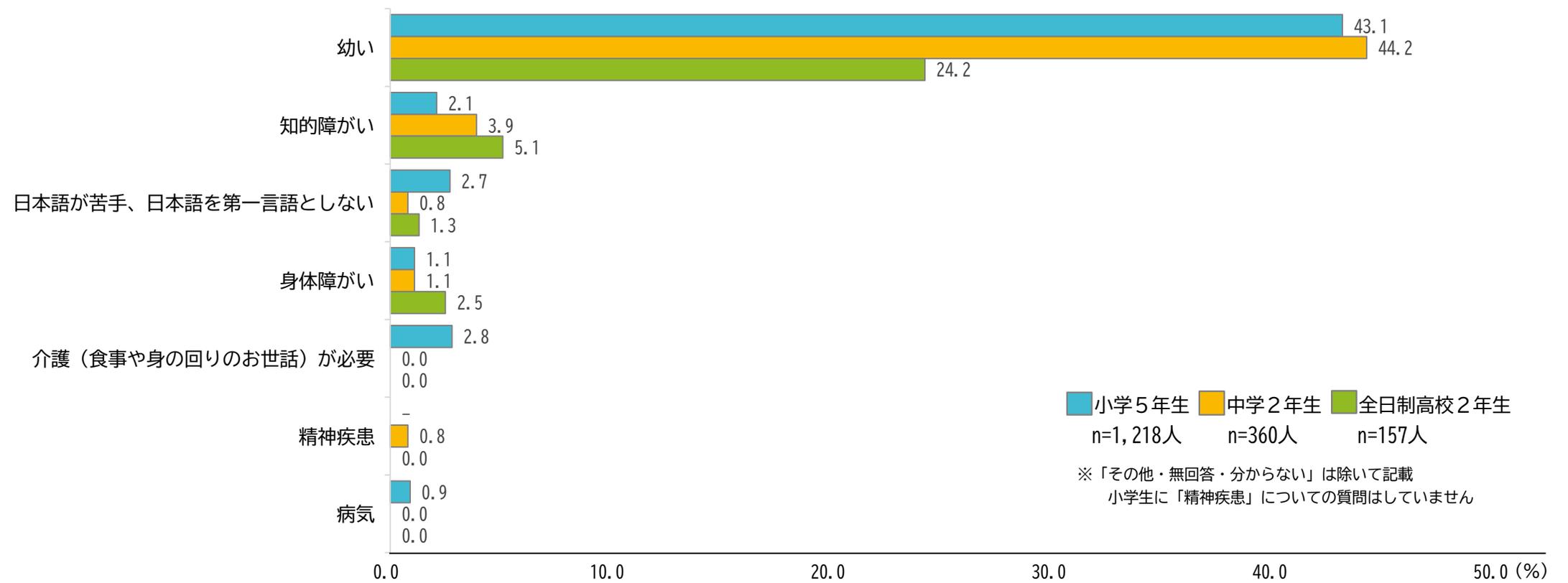


子どもアンケート調査結果の概要

「世話を必要とするきょうだいの状況」について

世話を必要とするきょうだいの状況については、小中高生とも「幼い」が最も多くなっている。

●世話を必要とするきょうだいの状況【複数回答】



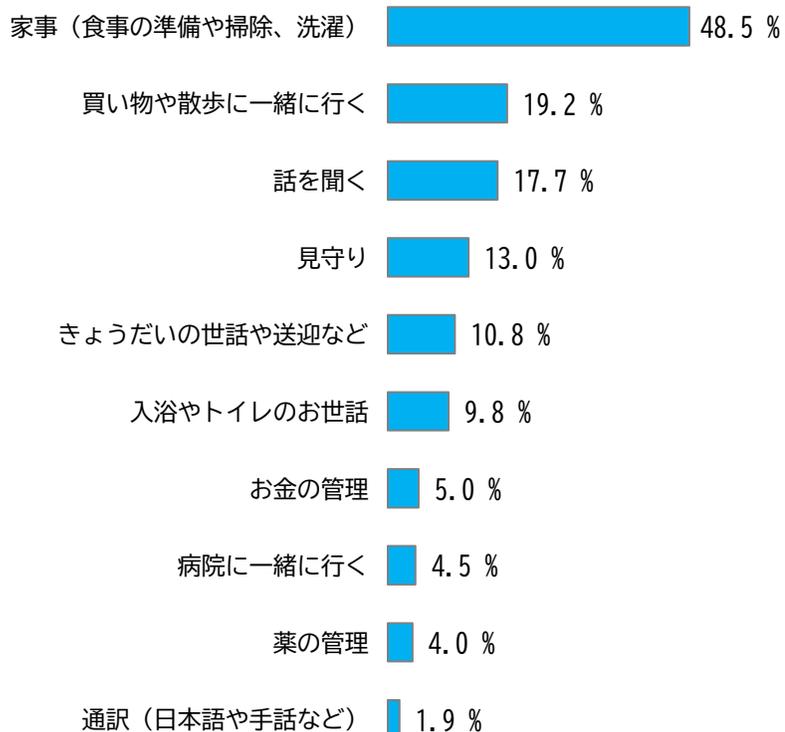
子どもアンケート調査結果の概要

「父母への世話の内容」について

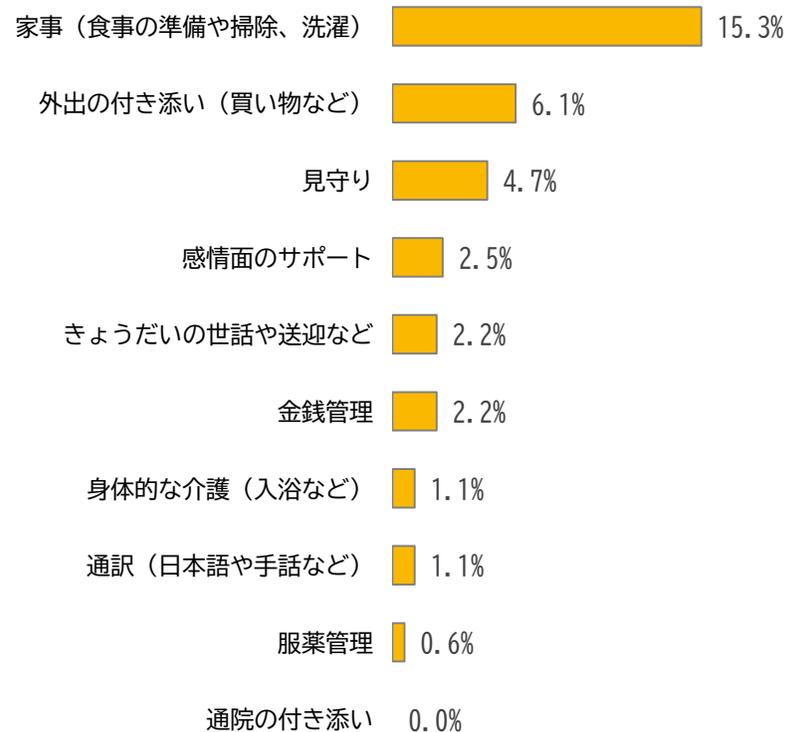
父母への主な世話の内容は食事の準備や掃除、洗濯などの「家事」が最も多く、次いで「外出の付き添い」「見守り」となっている。

●父母への主な世話の内容【複数回答】

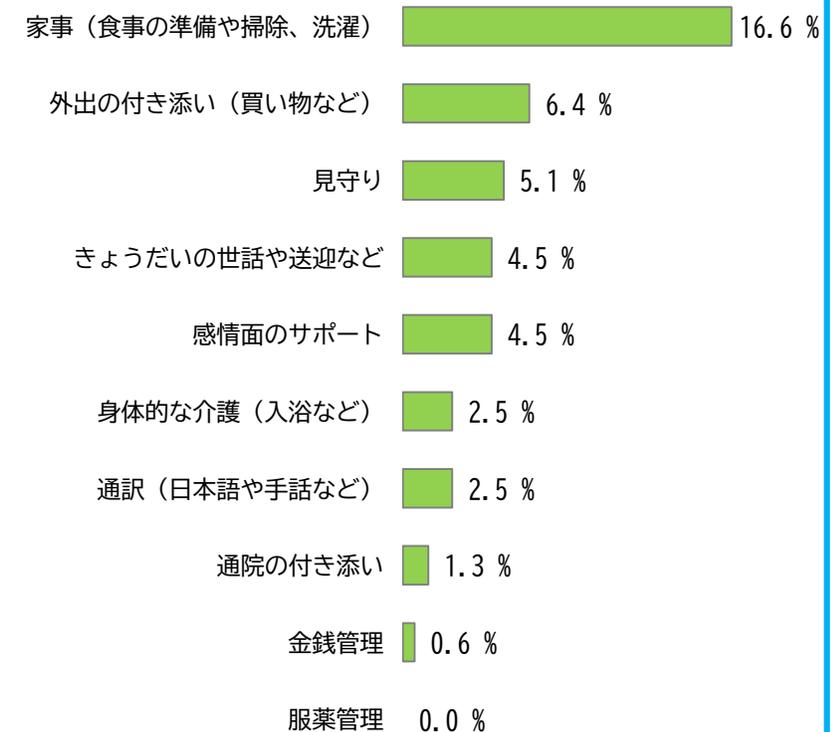
●小学5年生(908人)



●中学2年生(360人)



●全日制高校2年生(157人)



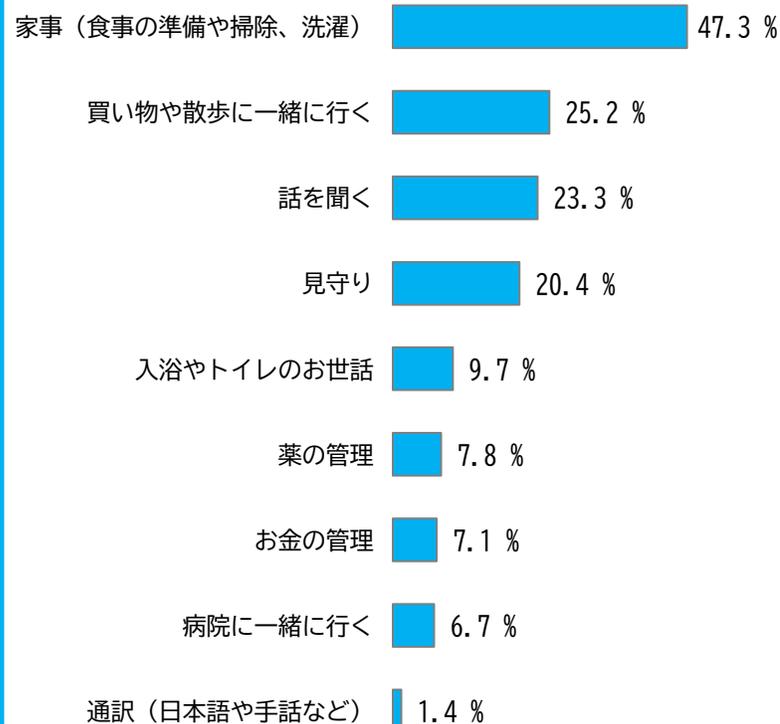
子どもアンケート調査結果の概要

「祖父母への世話の内容」について

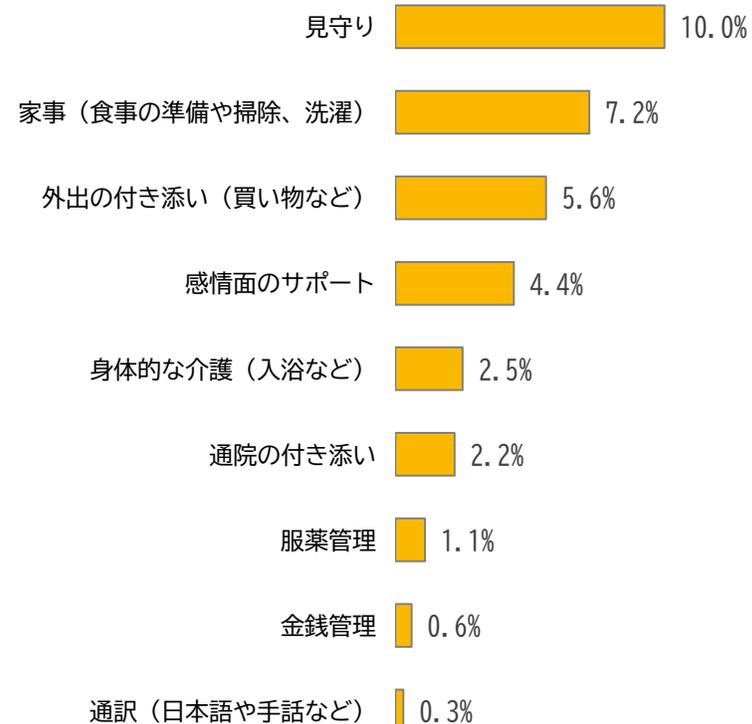
祖父母への主な世話の内容は食事の準備や掃除、洗濯などの「家事」や「見守り」が多く、次いで「外出の付き添い」「見守り」となっている。

●祖父母への主な世話の内容【複数回答】

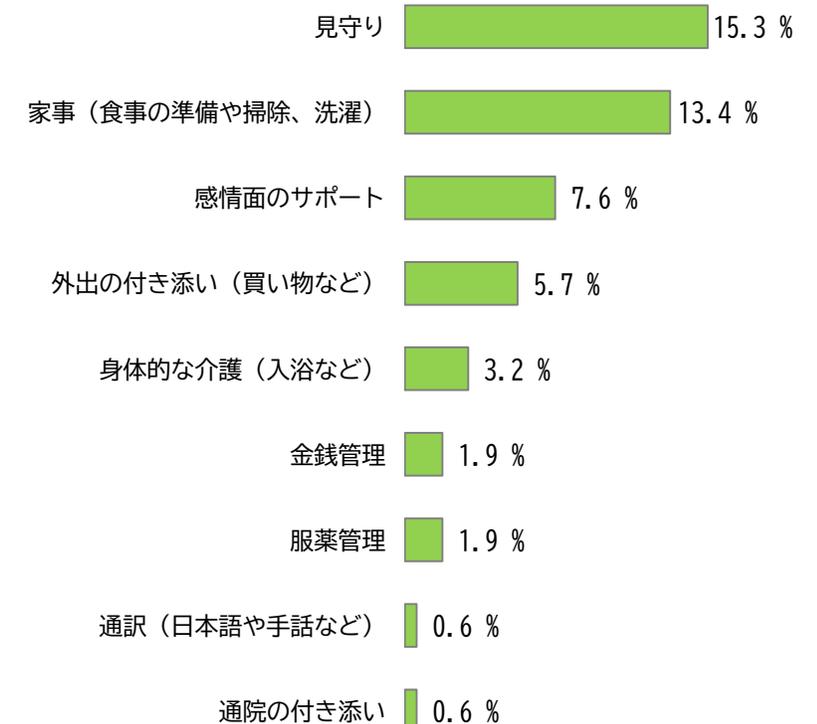
●小学5年生(421人)



●中学2年生(360人)



●全日制高校2年生(157人)



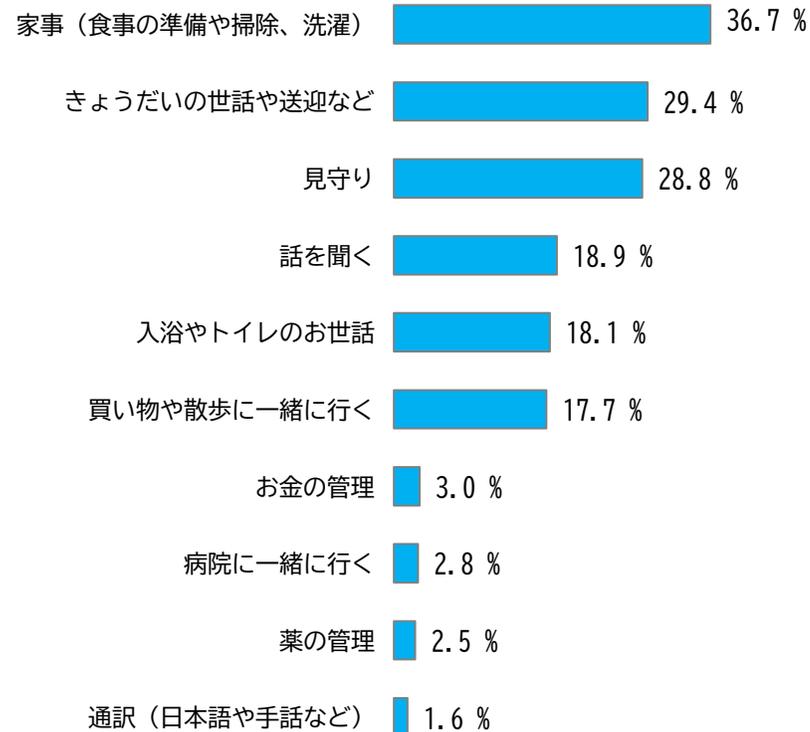
子どもアンケート調査結果の概要

「きょうだいへの世話の内容」について

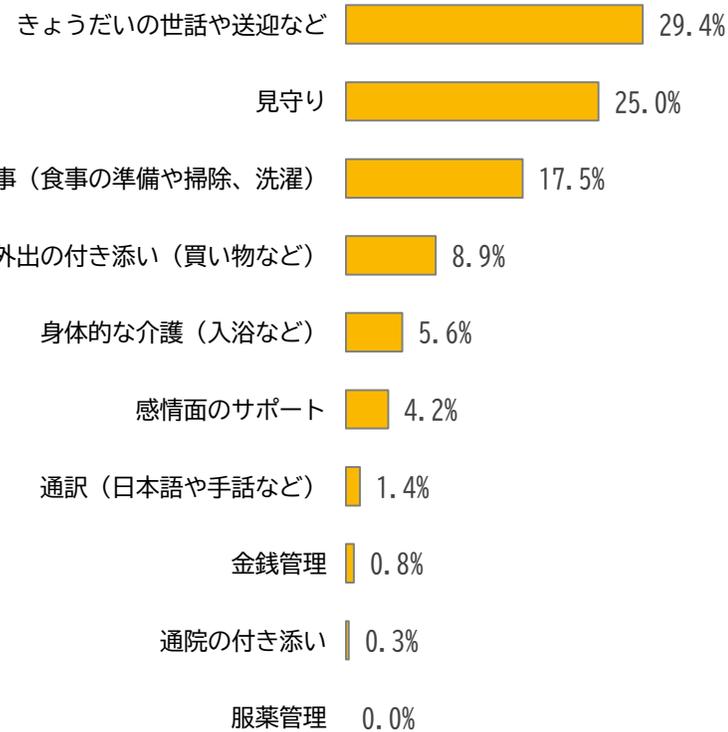
きょうだいへの主な世話の内容は食事の準備や掃除、洗濯などの「家事」や「きょうだいの世話や送迎など」「見守り」が多くなっている。

●きょうだいへの主な世話の内容【複数回答】

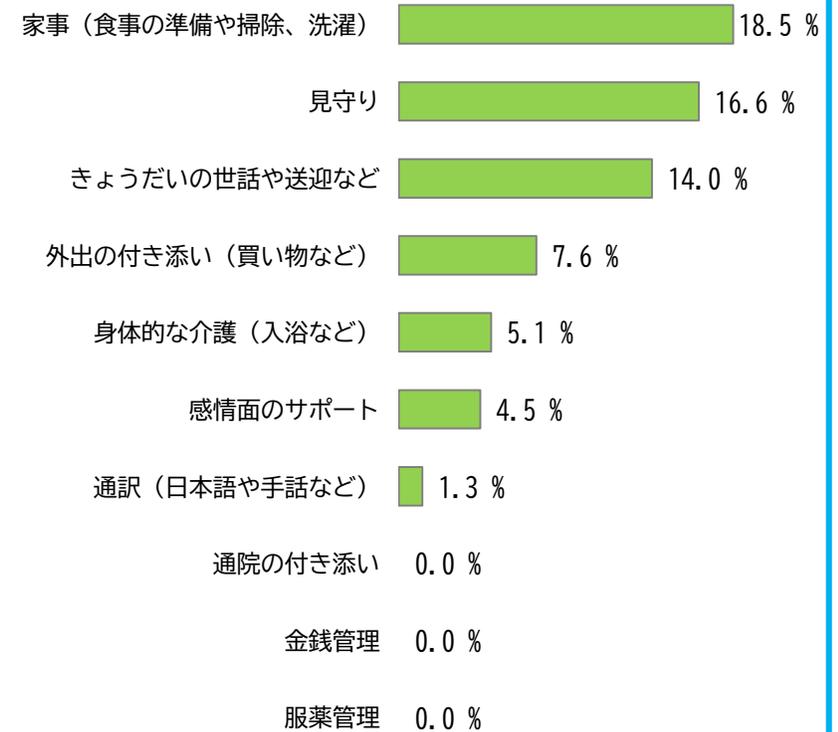
●小学5年生(1,218人)



●中学2年生(360人)



●全日制高校2年生(157人)



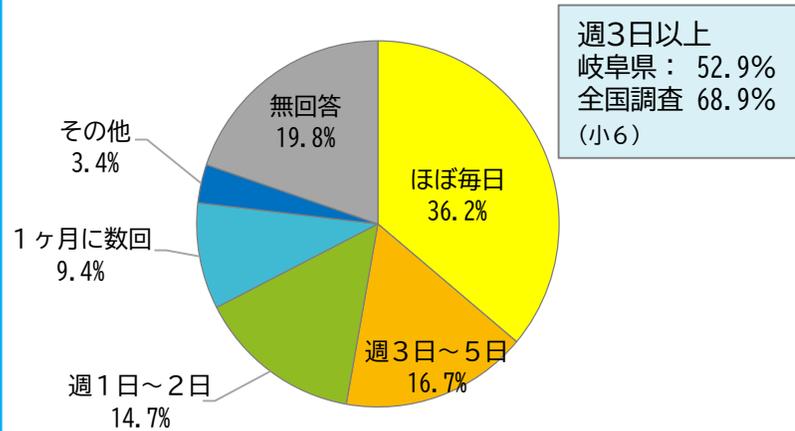
子どもアンケート調査結果の概要

「世話の頻度」と「世話に費やす時間」について

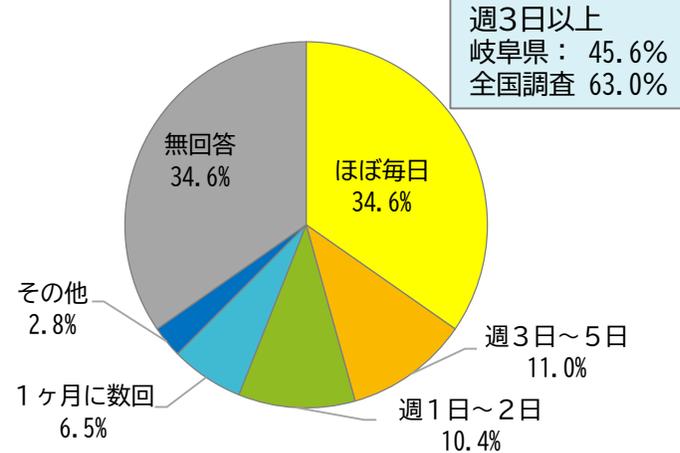
世話をする子どもの3割から5割が「週3日以上」家族の世話をしており、世話をする子どもの1割から2割が平日1日あたり「3時間以上」家族の世話をしている。

●世話の頻度

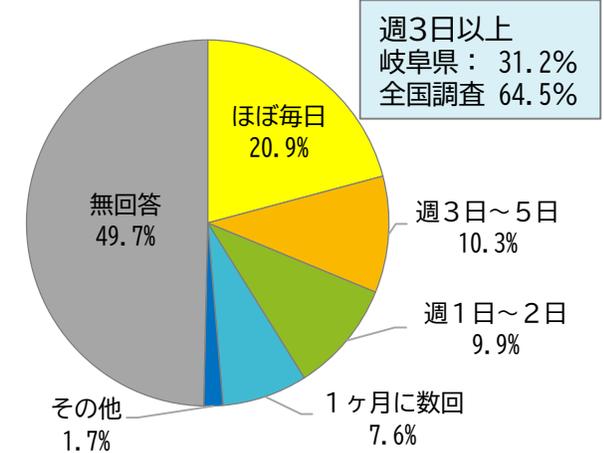
●小学5年生(2,177人)



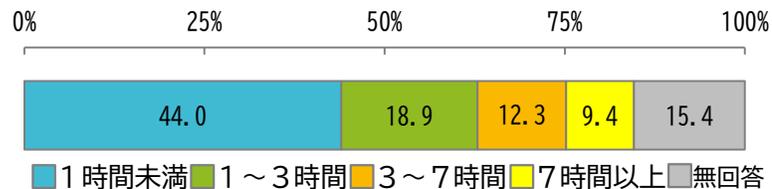
●中学2年生(635人)



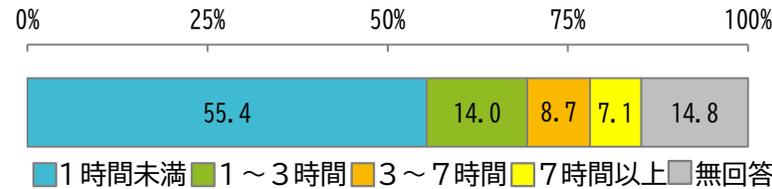
●全日制高校2年生(302人)



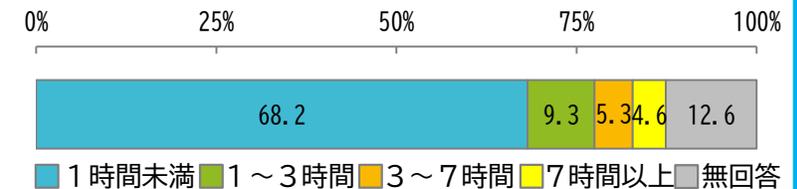
●世話に費やす時間



平日3時間以上 岐阜県：21.7% 全国(小6)：29.9%



平日3時間以上 岐阜県：15.8% 全国：33.5%



平日3時間以上 岐阜県：9.9% 全国：35.1%

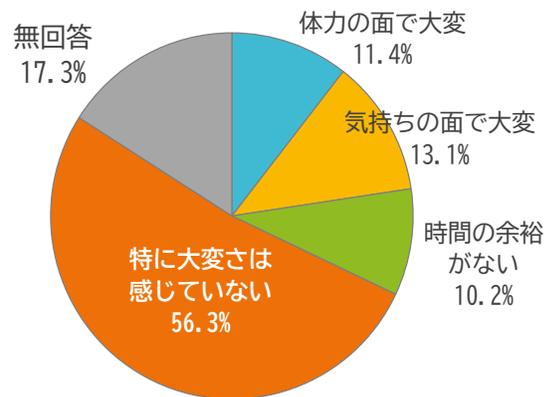
子どもアンケート調査結果の概要

「世話をすることの大変さ」について

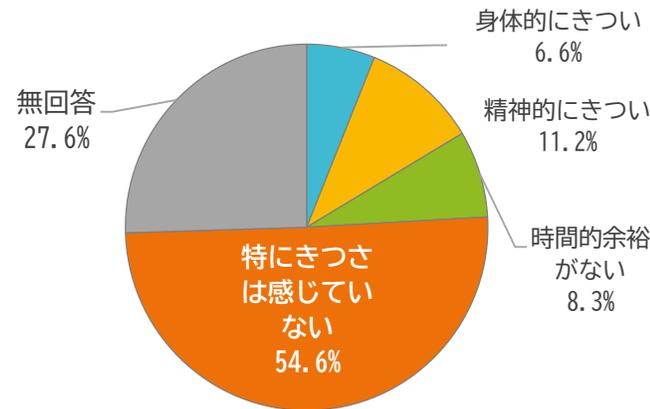
家族の世話をする子どものうち2割から3割が「身体的、精神的にきつい」「時間の余裕がない」と感じている。また、家族を世話することにより「自分の時間・勉強時間が取れない」「睡眠が十分に取れない」など、生活に支障が生じている。

●家族の世話することの大変さ

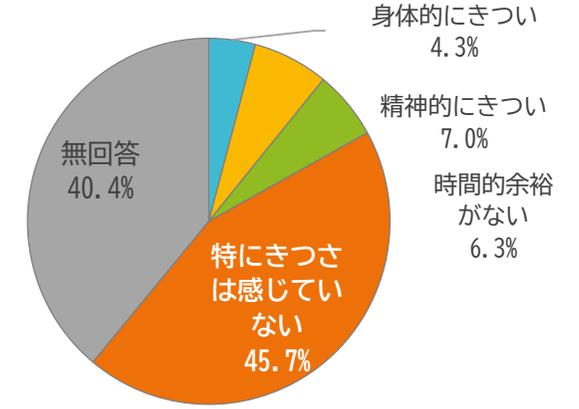
●小学5年生(2,177人)



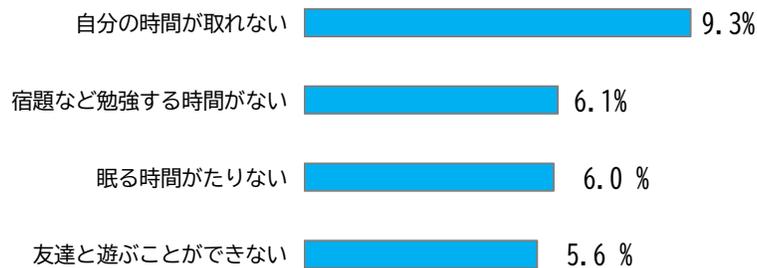
●中学2年生(635人)



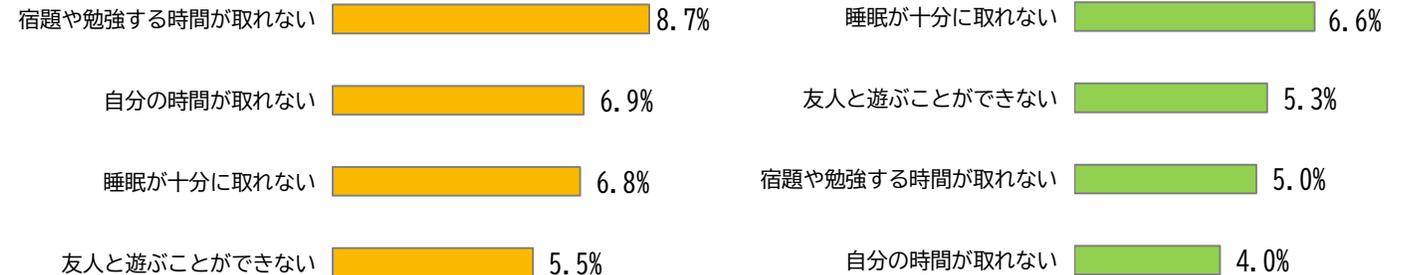
●全日制高校2年生(302人)



●お世話していることで経験したこと(主なもの) 【複数回答】※小学生



●やりたいけど、できていないこと(主なもの) 【複数回答】※中学生・高校生



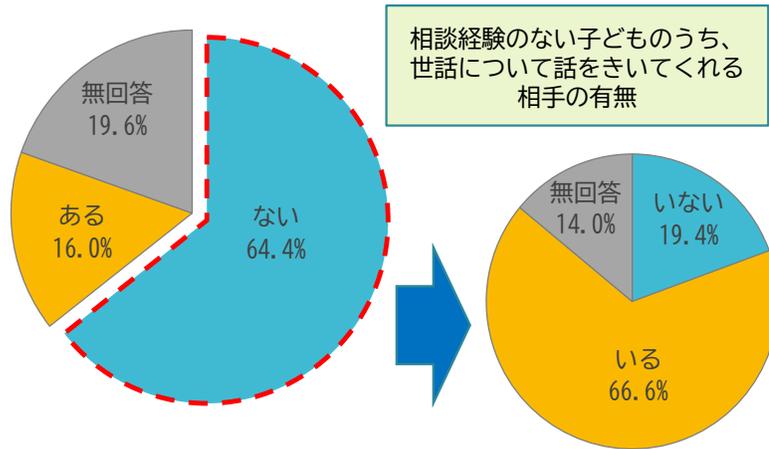
子どもアンケート調査結果の概要

「世話についての相談経験」と「相談しない理由」について

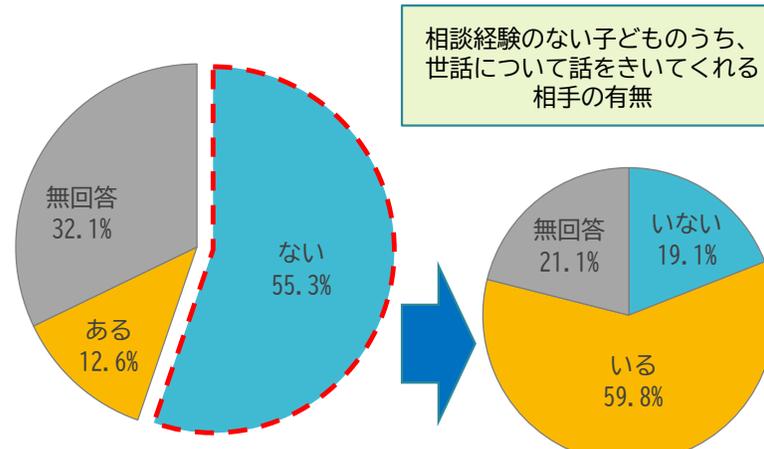
世話をする子どもの4割から6割が相談したことがないと回答。悩みを抱えているが相談しない理由として「相談するほどの悩みではないから」「家族以外の人に相談するような悩みではない」「相談しても状況は変わらない」と回答している。

●相談経験の有無

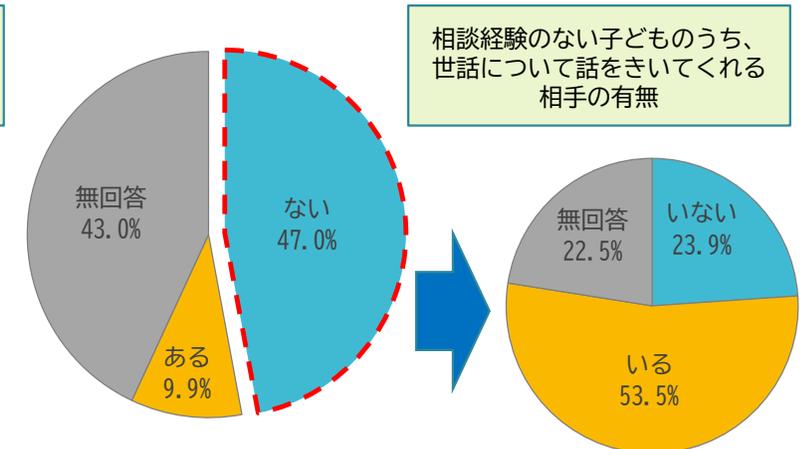
●小学5年生(2,177人)



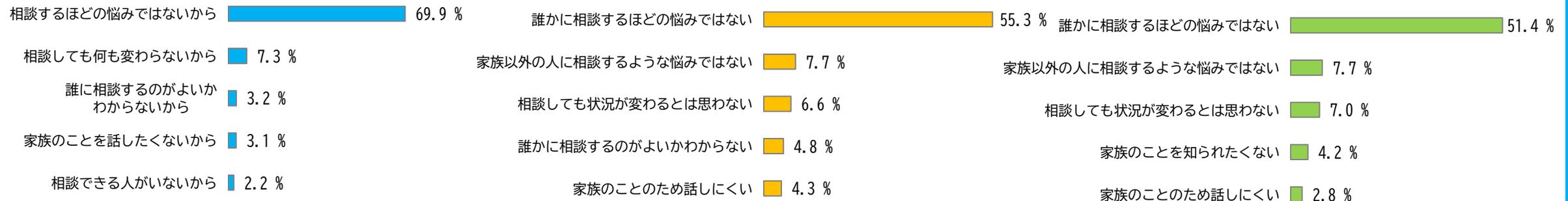
●中学2年生(635人)



●全日制高校2年生(302人)



●相談しない理由【複数回答】※「その他・無回答・分からない」は除いて記載

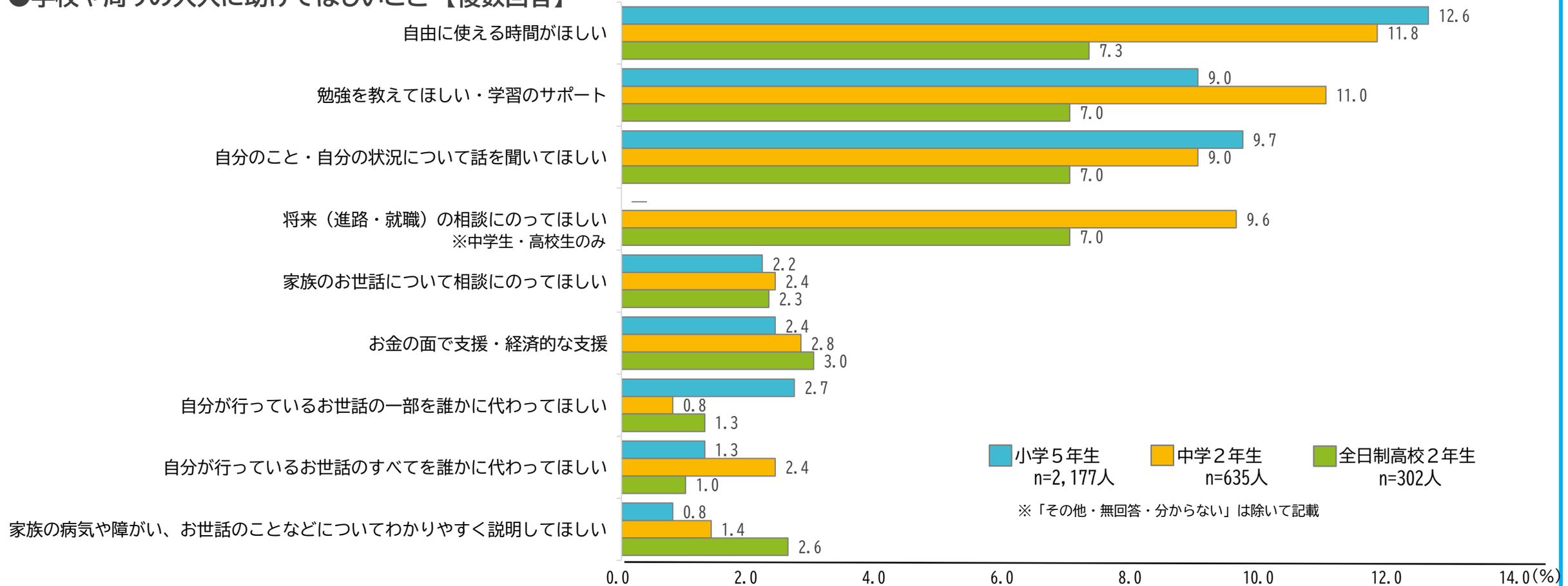


子どもアンケート調査結果の概要

「学校や周りの大人に助けてほしいこと」について

世話をする子どもは「自分の時間がほしい」「勉強を教えてほしい」「話を聞いてほしい」「将来の相談にのってほしい」といったニーズを抱えている。

●学校や周りの大人に助けてほしいこと【複数回答】

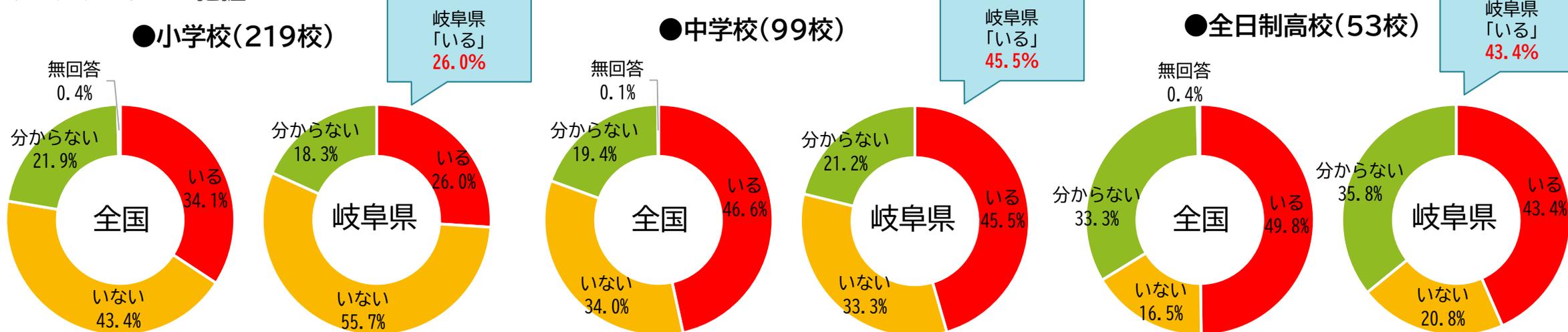


学校アンケート調査結果の概要

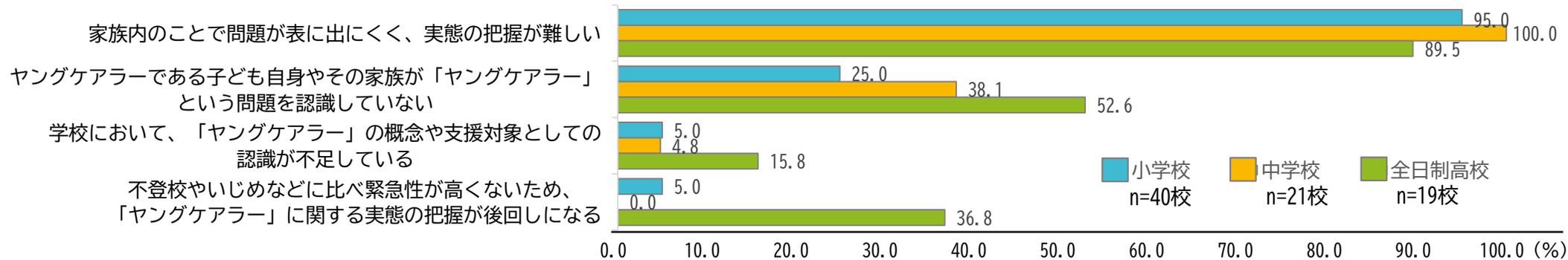
「学校でのヤングケアラーの把握状況」について

小学校は2割程度、中高校は4割程度の学校でヤングケアラーと思われる子どもが在籍すると回答している。また、該当の有無が分からない理由として、家族問題のため把握が難しいとの回答が多い。

●ヤングケアラーの把握



●ヤングケアラーがいるか分からない主な理由【複数回答】



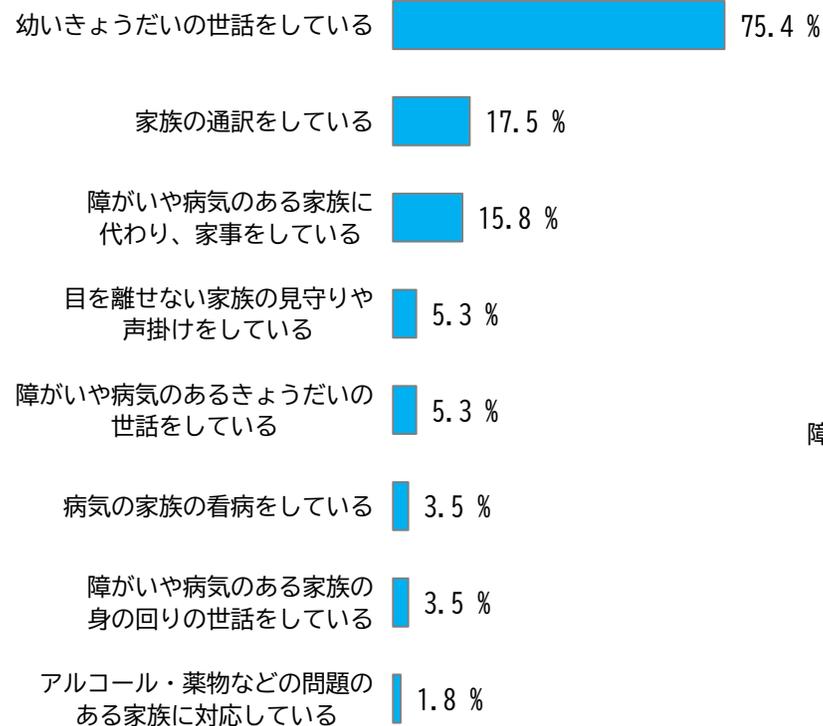
学校アンケート調査結果の概要

「ヤングケアラーと思われる子どもの状況」について

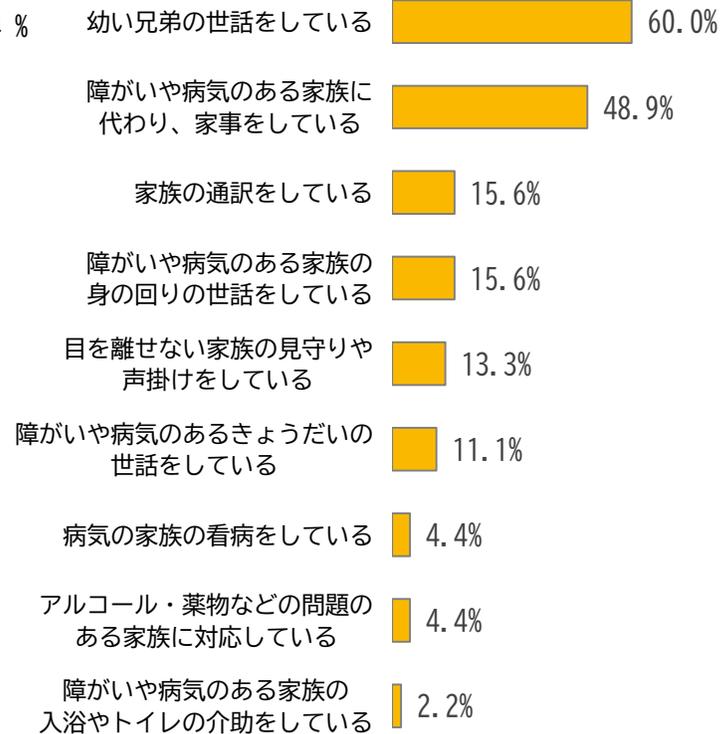
学校が把握するヤングケアラーの状況は、家族にかわり「幼いきょうだいの世話」「家族の通訳」「家事」をする子どもが多い。

●ヤングケアラーと思われる子どもの主な状況【複数回答】

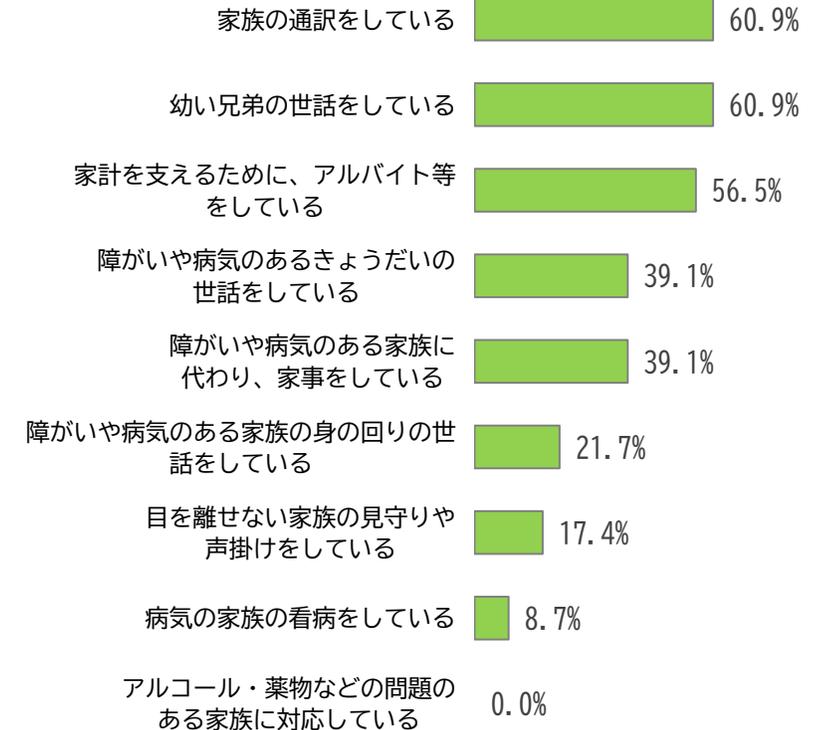
●小学校(57校)



●中学校(45校)



●全日制高校(23校)



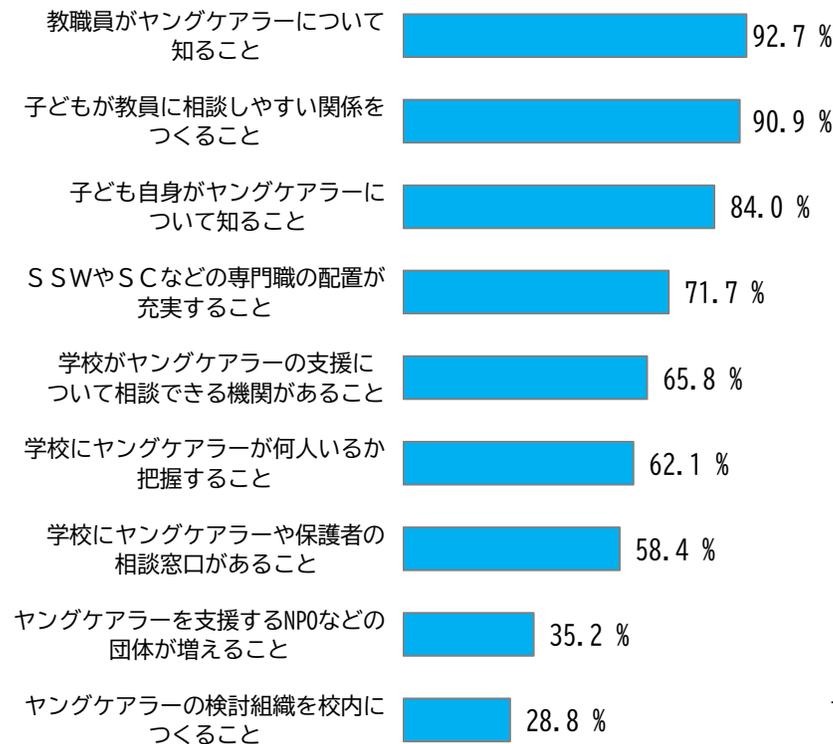
学校アンケート調査結果の概要

「ヤングケアラー支援に必要な取り組み」について

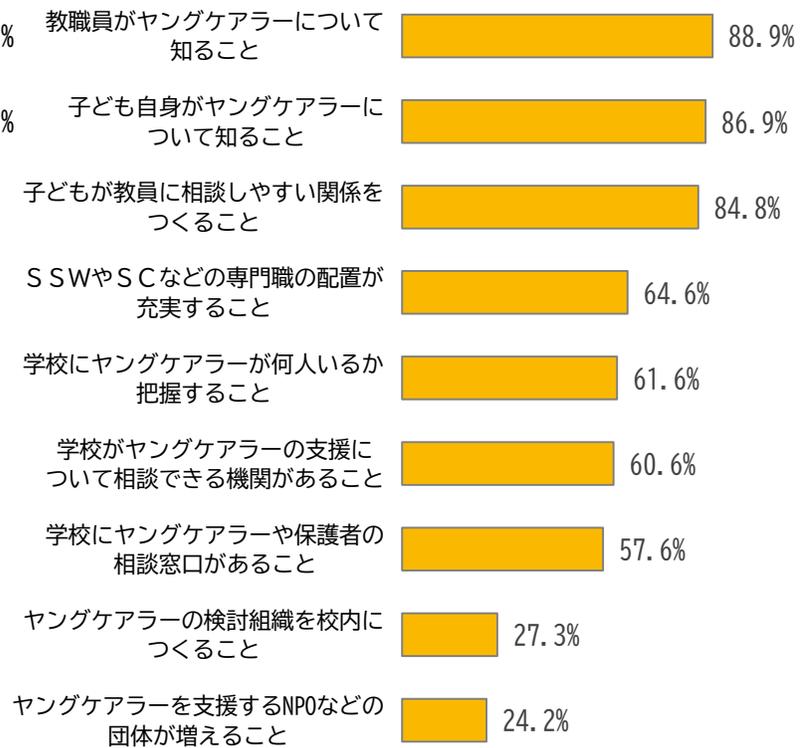
ヤングケアラー支援に必要な取り組みとして、小中高校とも「教職員がヤングケアラーについて知ること」「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が多く挙げられている。

●ヤングケアラー支援に必要な主な取組【複数回答】

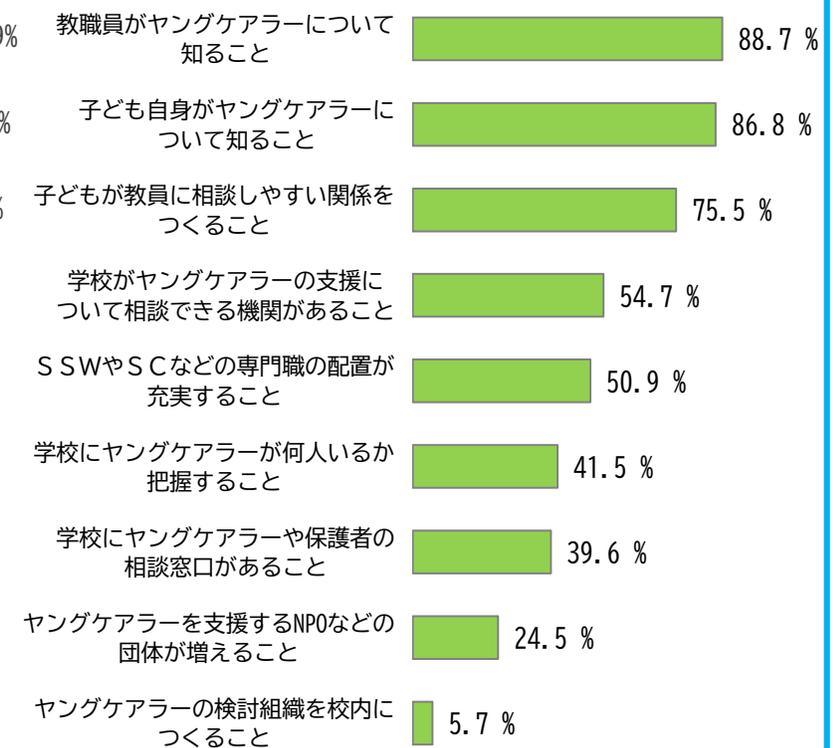
●小学校(219校)



●中学校(99校)



●全日制高校(53校)



インタビュー調査結果の概要

インタビュー先：県内の元ヤングケアラー 3名、関係団体等 17団体

◇ 元ヤングケアラーのインタビュー概要

- ・ 介護や家事に時間を取られ、部活動をやめたり、通信制高校への転学など学校生活や進路に影響が出た。
- ・ 母の病状の悪化に伴い、父が退職。経済面での困窮、父の健康状態の悪化など家族全体の状況が徐々に深刻化した。
- ・ ヘルパー等支援者が家に入ってくることには抵抗があった。
- ・ 自分は家族のことを大切に思っているし、家族も皆頑張っている。その中で介入されると、親が悪いという形になり、それは、子どもにとってすごく嫌だと思う。
- ・ 学校の中では普通でいたいという気持ちがあった。
- ・ 相談窓口が当時あったとしても、相談できなかったかもしれない。不安感がある。
- ・ いちばんつらかった時期に、家族の介護を担っている友達と出会い、色々話せたことは本当に良かった。
- ・ ヤングケアラー向けではない、地域の子どもが、誰でもいつでも立ち寄れる第三の居場所があると嬉しいと思う。

◇ 関係団体等（医療、福祉、教育、多文化共生等）のインタビュー概要

- ・ 関係者の間では、研修等によりヤングケアラーという概念は急速に認知されてきている。
- ・ 活動の中で、ヤングケアラーではないかと思うケースが見受けられることはある。
- ・ ヤングケアラー本人にヤングケアラーという自覚がない。
- ・ 本人だけでなく家族にも認識がない。若しくは認めたくないということがあり、相談に繋がりにくいのではないか。
- ・ どう支援したら良いのか、どこからが介入すべき重篤な状況なのかが分からない。
- ・ 子どもが行政機関等に直接相談するというのはハードルが高いのではないか。ネットであれば相談しやすいのではないか。

参考

ヤングケアラーの定義

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

岐阜県ヤングケアラー実態調査報告書（概要版）

令和5年3月発行
岐阜県子ども・女性局子ども家庭課

〒500-8570 岐阜市藪田南2丁目1番1号
TEL：058-272-1111 FAX：058-278-2644
E-mail c11217@pref.gifu.lg.jp
<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/244951.html>

編集委託先：Next-i株式会社 岐阜オフィス
〒503-0907 岐阜県大垣市番組町2丁目1番